



お母さんといっしょに入園式



子供たちは外が大好き。砂場やブランコ、山などのある広い園庭を駆け回る

四月八日、市内十七の保育園、児童館で、一斉に入園式が行われました。園児数は全体で千四百五十五人（三歳未満児三十一人、三歳児三百三十八人、四歳児三百九十八人、五歳児三百八十六人）です。このほど完成し、三月二十七日に竣工式を行った小林保育園でも、六十九人の園児たちが元気に通園を始めました。四、五歳児三十九人のうち三十二人が、今まで木山季節保育所に通っていた子供たちです。

吉川園長は「新しいだけあって、無駄なく設計されているのに感心しました。色調も落ち着いた感じでまとめられています。この子供たちは、非常に気持ちややさしくて思いやりがありますね。それを大切にしながら、意欲的に行動する心を伸ばしていきたい」と話しています。

広い園庭には山がつけられ、プールが夏の来る日を待っています。周りには、いちようや桜の木などが植えられ、日曜日には、お母さんたちが花壇をつくってくれました。

これで市内全地区に、公認の市立保育園が出そろったこととなります。これまで地元部落が運営してきた木山季節保育所は、閉所されました。

「広いなあ」遊びの幅も広がるね

小林保育園が開園



送り迎えは通園バスで



「おいしい」と、給食や手作りのおやつが好評



「かわいいんだよ」。2匹のモルモットは人気の的

素朴だった木山季節保育所



吉田裕子さん (平湯・主婦・31歳)

木山保育所には、子供（現在5歳児）が2年間お世話になりました。子供の話では、ときどきネズミやヘビが出てきて先生を驚かし、年長組の子が捕まえてくれたりしたそうです。窓ガラスが割れたりすると、ビニールでふさいでいました。今考えると素朴だったんだなあって思います。冬には2か月あまりの休みがあって、子供が「保育園に行きたい」とせがむんですよ。

通園バスの運行には、いろいろ反対もあり、私たち役員は意見の取りまとめに苦労しました。でも、けっきょく皆さんの賛成が得られ、地区の役員のかたの協力でここまでこぎつけられて、ほんとうによかったと思います。

小林保育園は建物がきれいで広いし、子供の遊ぶ施設も整っていますね。プールは「どんな格好して入るんだろうね」と子供が今から楽しみにしています。

何よりも、仕事を持つお母さんは助かっていると思います。「季節だから」と、今までよその保育園に通わせていた人も、これで安心して地元へ預けられます。

改選後初の農業委員会
新会長に長谷川さん



長谷川昭二会長 (中大郷・59歳)

農業委員会委員選挙は、三月二日告示。同日、立候補者の届け出が締め切られ、無投票でした。

四月一日、市役所大会議室で、改選後初めての委員会が、市長の召集で開かれ、市議会や各農協などから推薦された委員に辞令を交付。また、新会長に長谷川昭二さん、会長代理に小田喜好さんを選び、終了後は早速「農政の課題と農業委員の役割について」の研修を行っていました。

なお、委員会の構成員は、次の選挙による委員二十人、各団体からの推薦委員十人の計三十人です。



推薦委員に市長が辞令を交付

農業委員会からのお知らせ
農地の売買も
農用地利用増進事業で
農用地利用増進事業では、これまで農地の「貸し借り」の申し出を受け付けてきましたが、これをさらに進めるため本年度から「売買（所有権の移転）」も行っていきます。また、これまで年一回だった受付は、毎月（十五日締め切り）行います。

詳しいことは地元の農業委員か、農業委員会事務局（☎240）へお尋ねください。

【選挙】▽新飯田・茨曾根地区 間島久馬（上吉上） 関根喜八郎（丸湯） 笠原更生（道湯）
▽庄瀬地区 東樹長平（上八枚） 石田伸一（庄瀬二） 近藤 弘（沖新保）
▽小林地区 谷川正衛（戸頭） 小田喜好（櫛笥）
▽白根地区 小林栄一（中央通六）
▽白井地区 土屋芳郎（戸石） 阿部吉雄（中山）
▽大郷地区 長谷川昭二（中大郷） 大野興四雄（下大郷二） 石山守時（下笠巻）
▽鷺巻地区 丸山 勇（東笠巻新田二） 品田朋男（下鷺ノ木一） 岡村睦栄（西笠巻二）
▽根岸地

消防団長に小林さん



小林定四郎団長 (下笠巻・57歳)

四月一日付けで、消防団長に新しく小林定四郎さんが、また、副団長に安藤政治さん（下塩俣）と細井吉太郎さん（沖新保）が、市長から任命されました。

「今までの団長を見ならい、がんばっていきなさい」と小林さんは話しています。

旧戸頭小学校舎を解体

明治三十三年に小吉村立戸頭尋常高等小学校として設立され、昭和五十八年三月に閉校された旧戸

頭小学校の校舎が、先月、解体されました。この校舎は、昭和十一年に新築されたものです。



仲間ともうかる農業を

農業大学講座の開講式が四月十五日、農業会館で行われました。「仲間といっしょに、もうかる農業を楽しく学ぼう」と、本年度は五十六人の若者が専門、総合の二コースに分かれ、一年間、研修を行っていきます。

昭和61年度 農業大学講座開講式

